

ティーチング・ポートフォリオ

日本国際学園大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
濱西 隆男

教育の責任

私は、大学教育の目的として、社会において職業人として活躍できるように、そのために必要な専門的な知識を使いこなせる実践的な能力の基礎を身に着けさせることにあると考える。大学、そして教育研究を担う教員の責任は重いといわなければならない。

現代のような社会経済の目まぐるしい変化に対応して、職業人として長く活躍できるためには、大学で身に着けた専門的な知識を絶えずブラッシュアップ（向上）していかなければならなくなっている。このためには、単に知識として覚えるだけでなく、実際に知識を使いこなせる実践的な能力を身に着けることが求められている。大学は、学生の将来の活躍に向けて、知的な刺激を与えることを通じて、「実践的な能力を鍛える場を提供する存在」でなければならないと考える。

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
政治の基礎	2～4	20	講義	選択	総合教養(教養)
法学概論	2	30	講義	選択	専門基礎(公務員)
行政法総論	2～4	(若干名)	講義	選択	専門基礎(社会科学)
行政法各論	2～4	10	講義	選択	専門基礎(社会科学)
地方自治論	2～4	10	講義	選択	専門基礎(社会科学)
公共政策概論	2～4	10	講義	選択	専門基礎(社会科学)
行政学	3～4	10	講義	選択	専門発展(社会科学)
地域経営論 B	4	(若干名)	講義	選択	専門基礎(地域デザイン)
地域デザイン学	4	(若干名)	講義	選択	専門基礎(地域デザイン)
地域デザインの基礎 1	4	(若干名)	講義	選択	専門発展(地域デザイン)
専門演習ゼミ 2	4	数名	演習	選択	専門発展(社会科学)
卒業研究	4	若干名	演習	選択	専門発展(社会科学)

教育の理念

上記のように、大学が、学生の将来の活躍に向けて、知的な刺激を与えることを通じて、実践的な能力を鍛える場を提供する存在でなければならないと考えるとすれば、学生時代に、授業を通じて、学問分野に従って配置されている各科目の基礎的な知識とそれを使用して各科目に特有な思考法を習得してもらうことが必要になる。

各科目の基礎的な知識とそれを使用して各科目に特有な思考法は、学生に対し、社会人になる前に、複数の思考法という学生自身の引出しを準備させることになる。複数の引出しから思考法を取り出し検討することを通じて、多様な理解力と事案に応じた柔軟な問題解決能力を発揮できるようになる。

教育の方法

上記のように、多様な理解力と事案に応じた柔軟な問題解決能力を発揮できることが求められているとすれば、教員による一方的な知識の教授だけでは不十分であり、教員と学生との双方向的な教育を実施していく必要がある。また、双方向的な教育において、学生の課題を与え、学生自身に考えさせて課題を解決させていくことも必要になる。

学生のコミュニケーション能力を含む理解力と問題解決能力を向上させるため、双方向的な教育をできる限り取り入れていく。

教育の成果 および 今後の目標

授業改善計画報告書を参照されたい。

参考資料

授業で配布している講義資料（非公開）

授業で使用しているパワーポイント（非公開）